

細胞検査士の現状と今後の課題

- 佐藤信也¹⁾ 大野招伸¹⁾ 野口裕史²⁾ 花牟禮富美雄²⁾ 稲田千文³⁾ 谷口康郎³⁾ 森田勝代⁴⁾ 矢野りか⁴⁾ 寺田一弥⁵⁾ 白濱幸生⁵⁾
宮崎大学医学部附属病院病理部¹⁾ 宮崎江南病院検査部²⁾ 県立宮崎病院臨床検査科³⁾ 宮崎市郡医師会病院病理検査室⁴⁾
古賀総合病院臨床検査技術部⁵⁾

【はじめに】

専門的な技術の習得を目指す臨床検査技師は多く、宮崎県内にも細胞検査士、超音波検査士、輸血認定技師などの認定資格を有する臨床検査技師が多くなっている。

しかし、超音波検査士を目指す若い臨床検査技師は多いが、細胞検査士を目指す臨床検査技師は少なくなっており、宮崎の細胞検査士の現状と今後の課題について報告する。

【細胞検査士の現状】

- 1) 宮崎県内では、病理・細胞診業務を行なっている施設が比較的少なく、各施設で既に細胞検査士の必要数が充足しているため、細胞検査士の養成を急ぐ施設が少ない。
- 2) 宮崎県内の細胞検査士は高齢化の傾向がみられ、このままでは数年～10年後には、細胞検査士が不足する可能性がある。
- 3) 細胞診分野は他の分野とローテーションすることが少なく、新たに配属される臨床検査技師が少ない。

【今後の課題】

- 1) 現在細胞診を実施している施設においては、数年後を見越して若い世代の細胞検査士を養成する工夫が必要である。
- 2) 今後細胞診を実施したいと考えている施設の臨床検査技師が細胞診の勉強を行える環境を提供する必要がある。また、その情報を広報することが必要である。
- 3) 細胞診断が困難な症例のコンサルテーションが気軽に行える環境を整え、小規模あるいは技師が一人しかいない施設でも細胞診を実施し易くする必要がある。
- 4) 血液検査や一般検査など同じ形態学の分野と合同の勉強会などを行い、細胞診を身近に感じてもらう工夫も必要である。

【まとめ】

病理・細胞診研究班では、若い細胞検査士の養成に苦勞しており課題も多い。病理細胞診に携わっていない方からのご意見やアドバイスをいただけると幸いである。

連絡先：0985-85-1873